

# 公益社団法人 日本天文学会

## 2022 年度事業報告書

### I. 出版物の刊行(定款第 2 章第 5 条 2 項に該当の事業)

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第74巻2号-6号、第75巻1号、75巻SP1号の計7回刊行。総論文数121編 (うちLetter 4、特集12)、総頁数1,771頁、発行部数100部、偶数月25日発行。
2. 天文月報 : 第115巻5号-12号、第116巻1号-4号を刊行。総頁数726頁、総目次8頁、発行部数3,450部、毎月20日発行。
3. 年会予稿集 : 2022年秋季年会発行総頁数336頁、250部印刷。2023年春季年会発行総頁数286頁、250部印刷。
4. ジュニアセッション予稿集 : 春季年会予稿集68頁、450部印刷。

### II. 年会の開催(定款第 2 章第 5 条 1 項に該当の事業)

#### 1. 2022 年秋季年会

2022年9月13日(火)から15日(木)の3日間、新潟大学五十嵐キャンパス(新潟県新潟市)にて口頭講演10会場を使って開催した。ポスター講演の掲載はオンラインのみとした。COVID-19感染拡大の状況を考慮し、初のハイブリッド(現地とオンライン双方から講演・聴講が可能)開催とした。講演件数は口頭講演が547件、ポスター(b・c)講演が144件で、合計691講演であった。参加登録人数は会員982名、非会員77名の計1,059名であった。本年会では、通常講演のほか企画セッション3件、特別セッション1件(天文教育フォーラム)を開催した。記者発表(講演1件)は9月12日(月)に新潟大学にてハイブリッドで開催した。展示コーナーは5件の賛助会員による展示があった。また保育室を開設し、2家族2名の利用があった。懇親会は中止とした。公開講演会は9月11日(日)に新潟市民プラザでハイブリッド開催し、約120名の参加があった。

#### 2. 2023 年春季年会

2023年3月13日(月)から16日(木)の4日間、立教大学池袋キャンパス(東京都豊島区)にて口頭講演1棟10会場、ポスター講演は同棟5会場を使って開催した。COVID-19感染状況をふまえ、2回目のハイブリッド開催とした。講演件数は口頭講演が492件、ポスター(b・c)講演が101件で、合計593講演であった。年会参加登録人数は会員1,017名、非会員80名の計1,097名であった。本年会では通常講演のほか、企画セッション1件、天文教育フォーラムを含む特別セッション2件、林忠四郎賞・研究奨励賞の受賞記念講演、ジュニアセッション(3月14日(火))もハイブリッドで開催した。ジュニアセッションの講演数は57件であり、約400名の参加があった。記者発表(日本天文遺産・天文教育普及賞の発表のみ)は年会に先立つ3月10日(金)にオンラインで開催した。展示コーナーは3件の賛助会員による展示があった。また保育室を開設し、4家族4名の利用があった。懇親会は中止とした。公開講演会は3月12日(日)にキャンパス内の太刀川記念館でハイブリッド開催し、約100名の参加があった。

### III. 代議員総会・理事会・会員全体集会及び監査(定款第 6-8 章第 36-57 条に該当の事業)

#### 1. 代議員総会

日時 : 2022年6月5日(土) 13時00分~15時20分

場所 : 日本天文学会事務所(オンライン開催)

議長 : 山本 智(議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2022年9月14日（水）11時40分～13時00分  
場 所：新潟大学（ハイブリッド開催）  
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2023年1月9日（月）13時00分～17時40分  
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）  
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2023年3月14日（火）12時20分～13時00分  
場 所：立教大学（ハイブリッド開催）  
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

## 2. 理事会

日 時：2022年5月21日（土）10:00～12:00  
場 所：日本天文学会 事務所（オンライン開催）  
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2022年9月13日（火）18:30～19:50  
場 所：新潟大学（オンライン開催）  
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2022年12月24日（土）13:00～15:10  
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）  
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2023年3月10日（金）17:00～18:22  
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）  
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

## 3. 会員全体集会

日 時：2022年9月14日（水）17:00～18:00  
場 所：新潟大学（ハイブリッド開催）  
司 会：町田 真美

日 時：2023年3月15日（水）16:00～17:20  
場 所：立教大学（ハイブリッド開催）  
司 会：町田 真美

## 4. 公益社団法人2021年度監査

日 時：2022年5月13日（金）14:30～15:30  
場 所：国立天文台すばる棟院生セミナー室  
出席者：奥村幸子監事、花岡庸一郎監事、酒向重行会計理事、鹿野良平会計理事、町田真美庶務理事、佐藤良信事務長

## IV. 委員会など（「日本天文学会委員会等に関する細則」に準拠）

本年度は以下の22の委員会と1の顧問において構成メンバー（任期2年の2年目）により各種活動が行なわれた。

◇ 選挙管理委員会

会長候補者（任期：2023年度～2024年度の2年間）の選挙を定款第17条および会長・副会長・理事・監事選考細則に基づき行った。被推薦者が1名のみであった為、細則に従いその1名を会長候補者とした。以上の選挙結果を天文月報115巻(2022)12月号において報告した。

◇ 推薦委員会

本年度は代議員選挙が行われない年度であったので、活動は無かった。

◇ 欧文研究報告編集委員会

2022年度は、176編の論文が投稿され編集委員が分担して査読手続を行った。通常号を6号と増刊特集号(Metre and Centimetre RadioAstronomy in the Next Decade)を発行し、121編・1,771頁を掲載した。編集顧問委員合同会議を2022年12月26日にオンラインで開催し、現在の刊行状況などの情報共有に加え、今後の特集企画や招待レビュー、国際化、カバーすべき新分野、LaTeXクラスファイルの更新、査読手続に関する各種改善に関して議論した。そのほか検討すべき事項について随時メールにより議論を行った。74巻4号から著者のカラー印刷料負担を廃止し、紙版はフルカラー印刷へ変更した。75巻(2023年)より機関購読はオンライン版の契約のみとすることを決めた。

◇ 欧文研究報告編集顧問

編集顧問委員合同会議を2022年12月26日にオンラインで開催し、現在の刊行状況などの情報共有に加え、今後の特集企画や招待レビュー、国際化、カバーすべき新分野、LaTeXクラスファイルの更新、査読手続に関する各種改善に関して議論した。

◇ 天文月報編集委員会

月に一度、zoom会議システムを用いて編集会議を開催し、天文月報の編集作業を行った。COVID-19影響下の社会貢献としてオンライン版の記事の閲覧制限を解除していたが、第116巻4号より従前の制限を再開した。内容面では、3つの特集（アストロケミストリー、機械学習、プラネタリウム100周年）を組んだほか、3つの新たなシリーズ企画（佐藤文隆氏ロングインタビュー、アカデミアの外を知る、海外の研究室から）を開始した。また、松本敏雄氏と齋藤修二氏の追悼記事を掲載した。

◇ 年会実行委員会

秋季年会（2022年9月13日～15日・ハイブリッド）および春季年会（2023年3月13日～16日、ジュニアセッションは3月14日、共にハイブリッド）を開催した。両年会の準備にあたっては、2022年6月13日・7月4日・8月5日・10月21日・11月17日、2023年1月11日にオンラインにて年会実行委員会およびプログラム編成会議を開催し、春季年会中の2023年3月15日に年会実行委員会をハイブリッド開催した。

◇ 天文教育委員会

春季及び秋季年会開催時に天文教育フォーラム（日本天文教育普及研究会と共催）を開催した。講師紹介プログラムは本年度7件依頼があり、全7件に対して合計8名を紹介した。ただし7件のうち1件は催しが中止となった。監修者紹介プログラムは本年度9件依頼があり、うち8件に対して合計8名を紹介した。1件は紹介に至らなかった。天文教育に関する各種協力要請に積極的に対応した。

◇ ネットワーク委員会

ウェブサイトや学会が運用するメーリングリスト等の維持管理を行った。ウェブサイトについては、委託業者の支援を受けつつウェブサーバを保守・運用した。学会が運用しているメーリングリスト

については、昨年度に引き続き事業継続性の観点から運用体制を変更すべく、技術的な問題点を解決し、新体制に移行できるように準備を進めた。

◇ 林忠四郎賞選考委員会

天文月報 2022 年 9 月号並びに tennet で、林忠四郎賞受賞候補者の推薦と欧文研究報告論文賞候補論文の推薦を 11 月 4 日締切で会員に依頼した。11 月 27 日に選考委員会を開催し、林忠四郎賞候補 1 件、欧文研究報告論文賞候補論文 2 篇を選出し、2023 年 1 月 9 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 研究奨励賞選考委員会

天文月報 2022 年 9 月号並びに tennet で第 34 回研究奨励賞候補者の推薦を会員に依頼した。2022 年 12 月 13 日に選考委員会をオンラインで開催し、候補者 3 名を選出し、2023 年 1 月 9 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 早川幸男基金選考委員会

若手海外学術研究援助の募集・選考を、第 117 回から 120 回までの 4 回実施した。応募 37 件（前年 9 件）のうち、18 件を採択したが 1 件は採択後に辞退した（前年の採択件数は、5 件だったが、COVID-19 の影響で 3 件辞退し結果的に 2 件）。2022 年度の採択率は 49% で、採択額は 5,733,655 円（前年 1,494,196 円）であったが、1 名採択後に辞退したため、支給額は 5,511,336 円であった。

◇ 国内研修支援金選考委員会

「国内研修支援金応募申請書」の変更について、2022 年 5 月 21 日開催された理事会にて提案し、承認された。2023 年度国内研修支援金の希望者募集を天文月報 2022 年 7 月号並びに tennet にて実施した（旧名称の内地留学奨学金も併称）。応募件数は 0 件だった。2021 年度の国内研修支援金の成果報告書に関して、天文月報 2023 年 2 月号への掲載支援を行った。2023 年 3 月 16 日に国内研修支援金選考委員会議をハイブリッド形式（立教大学池袋キャンパス+Zoom 利用）で開催し、現状についての情報共有に加え、2024 年度国内研修支援金募集についての検討を行った。

◇ 天体発見賞選考委員会

2022 年 8 月に tennet および天文月報 2022 年 9 月号で 2022 年度天文功労賞候補者の推薦募集を告知し、1 件の推薦を受けた。第一回選考会議を、2022 年 11 月 27 日にハイブリッド形態（広島大学東広島キャンパス+Zoom 利用）で開いた。また、12 月末日までの発見が受賞対象となることから、付加的な第二回選考会議を 2023 年 1 月 4 日にオンライン（Zoom 利用）で開いた。天体発見天体発見賞、天体発見功労賞については 2022 年内の IAU が管理する TNS からの速報や、CBET、MPEC、さらに ATe1 等の資料に基づき選考を行った。天文功労賞については会員及び選考委員会委員からの推薦に基づき選考を行った。選考会議の結果、天体発見賞 2 氏 8 件の候補を選出した。天体発見功労賞の候補は無しであった。天文功労賞（長期部門）については、6 件の中から委員の支持を最も多く集めた 1 氏 1 件を選考した。天文功労賞（短期部門）については、3 氏 2 件を候補として選出した。これらの候補を 2023 年 1 月 9 日に開催された代議員総会に推薦し、最終的に推薦通りに受賞が確定した。

◇ 日本天文遺産選考委員会

天文月報 2022 年 9 月号、tennet、および学会 web ページにおいて、日本天文遺産(第 5 回)の推薦を会員に依頼した。2022 年 10 月 19 日と 10 月 25 日にオンライン会議による選考委員会を開催し、3 件の候補を選出した。それぞれについて現地調査および所有者/管理者の意向確認を行い、2023 年 1 月 10 日に開催された代議員総会で推薦した。代議員総会で 3 件のうち 2 件が日本天文遺産として認定されたので、これら 2 件について認定証および贈呈品（楯またはパネル）を製作し贈呈した。

◇ 天文教育普及賞選考委員会

第五回天文教育普及賞候補の選考を行った。天文月報・tennet を通じて 9 月末締切で推薦を依頼、昨年度の推薦分 6 件を含め 13 件の推薦を受けつけた。うち 5 件が重なっていたため 8 件（個人 6・団体 2）を候補として審査を行った。2022 年 11 月 9 日にオンラインにて全員出席の下、選考委員会を開催、4 件（個人 4）を授賞候補とすることを決定した。2023 年 1 月 9 日に開催された代議員総会で審議が行われ、1 件のみ授賞が決まった。残り 3 件については選考委員会へ持ち帰り再審議を行ったが、実務理事とも相談の上、次回以降の候補とすることとなった。授賞結果は、3 月 10 日に春季年会に先立つ記者発表で発表された。表彰式は会長と選考委員 3 名が受賞者の勤務先を訪問する形で 3 月 20 日に実施、賞状と盾を授与した。

◇ ジュニアセッション実行委員会

2023 年春季年会(立教大学・ハイブリッド開催)にて第 25 回ジュニアセッションを開催した。2023 年 1 月 24 日の予稿集提出締め切りを受けて、1 月 29 日にプログラム編成会議を国立天文台三鷹にて対面+オンラインで実施したほか、随時各委員、世話人が年会実行委員、開催地理事とともにメール等で連絡を取りつつ運営に関する議論・調整・準備作業を行った。タイからの発表 5 件を含め、合計 57 件の発表(口頭およびポスター)申込があった。そのうち、現地会場での発表は 42 件であった。現地参加が発表者生徒 162 名、指導者 46 名に加え、年会参加の研究者、教育研究者、保護者等一般の方など約 260 名、オンライン参加者は 120 名以上と推計され、のべ参加者数は約 400 名であった。予稿集を編集し、発行した。発表者には予稿集と参加証を配布した。会場では来場者に若干部を配布したが、その他の参加者はジュニアセッション HP から PDF で閲覧することとした。ハイブリッド開催として、口頭セッションはオンライン参加者も含めた全員参加で実施、ポスターセッションは、現地会場とオンライン参加者がそれぞれで行った。さらに、発表資料を 3 月末までジュニアセッション HP から公開し、コメントフォームから投稿された各発表への質問・コメントをとりまとめて、4 月 11 日に発表者に送付した。

◇ 男女共同参画委員会

例年開催されている「女子中高生夏の学校」が、COVID-19 蔓延の影響で 2022 年度もオンライン開催されたため、教育委員会の臼田-佐藤氏と国立天文台の大学院生とともに、キャリア相談のコーナーに参加した。主催団体の「男女共同参画学協会連絡会」には、オブザーバー学会として引き続き在籍した。子育て世代・介護世代をサポートするため、COVID19 終息後における年会オンライン開催にむけて、WGに参加した。日本天文学会 2023 年春季年会の天文教育フォーラム「天文学研究/教育におけるダイバーシティ推進」にて、「日本天文学会における男女共同参画・ダイバーシティ」の講演を行い、2019 年度に行ったアンケート結果の紹介を中心に、日本天文学会における問題点を共有した。「女性と天文学」を執筆した Liège 大学の YaelNaze 氏の来日を機に、国立天文台にて座談会と談話会を企画した。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

主催団体の一つとして、他の 8 団体と協力し、第 30 回衛星設計コンテストを実施した。今年度は例年並の 68 件（設計の部 7、アイデアの部 14、ジュニアの部 47）の応募があり、アイデアの部が応募過多だった前年度の状況は改善された。うち 14 件（設計の部 3、アイデアの部 4、ジュニアの部 7）が書面審査を通過し、それらを対象とした最終審査会が 2022 年 11 月 12 日(土)、X-NIHONBASHI を会場としたハイブリッド形式で開催された。オンライン参加は国内 3 校と海外(台湾) 1 校で、残りは会場参加であった。審査の結果、各賞が決定され、日本天文学会賞は、東北大学・弘前大学・大分大学・慶応義塾大学の合同チームによるアイデアの部の提案「火星縦孔探査プロジェクト『HOTARU』」に授与された。詳細は <http://www.satcon.jp/> を参照されたい。

◇ 全国同時七夕講演会実施委員会

5月18日から全国同時七夕講演会の Web ページ上で対面開催およびオンライン開催の両方の講演会の登録受け付けを開始した。また、天文教育普及研究会の共催および日本学術会議の後援を取得した。7月7日の七夕の日や、伝統的七夕の日(令和4年は8月4日)を中心とした6月下旬から8月の間に20会場の25件の講演会が実施され、これらのうち対面開催は17会場の22件(うち5会場5件の講演会はオンラインとのハイブリッド開催)、オンラインのみの開催は3会場3件だった。これらのうち16会場の講演会主催者から参加者の報告があり、当日参加者数と9月末までの講演会の視聴者数(録画も含む)の合計は1736人だった。

◇ キャリア支援委員会

COVID-19 対策の制限から、2022 年度もオンライン集会や紙媒体でのキャリア支援活動が主となった。具体的には、形式ばらないスタイルで情報交換を行うキャリアカフェを2回、天文学分野から巣立ち、社会のさまざまな分野で活躍されている方への大学院生によるインタビューおよびそれを天文月報にまとめる活動の後押しをした。いずれも好評であっただけでなく、委員の発想を超える意見もよせられ、以降の活動の参考となった。2017年から運用を開始したウェブサイト「天文学と社会を繋ぐ職種の人材公募情報」でも引き続き天文学と社会をつなげる職種の公募情報を収集し、64件を発信した。

◇ コンプライアンス委員会

本年度は、会長または代議員総会からコンプライアンスに関わる事案の諮問がなかったため、本委員会は開催されなかった。

◇ インターネット天文学辞典編集委員会

「インターネット天文学辞典」(<http://astro-dic.jp/>)の更新・改良・維持運用を行っている。2023年4月16日時点での登録用語数は3,280用語である。編集委員は主にメールにて連絡を取り合い、日常的に改訂・更新作業を分業している。この1年間(2022年4月1日から2023年3月31日)での内容更新数は212回である。並行して、制作委員による会議を毎月1回行い、アクセス解析やコンテンツの改良等を行ってきた。利用者からのフィードバックは3月31日までの1年間で116件あり、内容が妥当な指摘については適宜対応した。Deadlinkも定期的にチェックして適宜対応した。総アクセス数は、季節変動があり、中学校・高等学校・大学での利用が多くの部分をお占めていると予想しているが、マスメディア関係者からの質問や照会も来るので本来の目的での利用も増えてきたと考えている。前年同月比では微増傾向にスローダウンしており、この1年間では最大で月約31万アクセス程度である。潜在需要への対応がほぼ完了した可能性があるが、微増であることと反復利用者もかなりの率をお占めていることから、今後もいっそう充実させ、信頼性を高めていく必要がある。

## V. 各賞の授与(定款第2章第5条7項に該当の事業)

2022年度日本天文学会各賞は、2023年1月9日に開催された代議員総会で以下のように決定し、春季会員全体集会で授与した。

◇ 林 忠四郎賞(1氏)

大須賀 健(おおすが けん)氏

筑波大学 教授

研究の表題「コンパクト天体周囲の降着流と噴出流の先駆的シミュレーション研究」

- ◇ 欧文研究報告論文賞 (2 編)
  - ・論文題目 : GOLDRUSH. II. Clustering of galaxies at  $z \sim 4-6$  revealed with the half-million half-million dropouts over the 100 deg<sup>2</sup> area corresponding to 1 Gpc<sup>3</sup>  
著者 : Yuichi Harikane et al.  
出版年等 : Vol. 70 (2018), No. SP1, article id. S11
  - ・論文題目 : Subaru High-z Exploration of Low-Luminosity Quasars (SHELLQs). II. Discovery of 32 quasars and luminous galaxies at  $5.7 < z \leq 6.8$   
著者 : Yoshiki Matsuoka et al.  
出版年等 : Vol. 70 (2018), No. SP1, article id. S35
- ◇ 研究奨励賞 (2020 年度 3 氏、2021 年度 3 氏)
  - ・木村成生 (きむら しげお) 氏  
東北大学学際科学フロンティア研究所 助教  
研究の表題 : 「ブラックホール天体での宇宙線加速と高エネルギー放射の理論的研究」
  - ・野田博文 (のだ ひろふみ) 氏  
大阪大学大学院理学研究科 宇宙地球科学専攻 助教  
研究の表題 : 「活動銀河核エンジンに関する新描像の確立と飛翔体搭載機器の開発」
  - ・藤本征史 (ふじもと せいじ) 氏  
テキサス大学オースティン校 Hubble Fellow  
研究の表題 : 「電波と可視光観測による初期銀河と銀河周辺物質の新描像の提案と確立」
- ◇ 天体発見賞 (2 氏、8 件)
  - ・板垣 公一 (いたがき こういち) 氏 7 件  
超新星 2022ame の発見、超新星 2022ewj の発見、超新星 2022hrs の発見、超新星 2022xlp の発見、超新星 2022xxf の発見、超新星 2022zzz の発見、超新星 2022aedu の発見
  - ・山本 稔 (やまもと みのる) 氏 1 件  
たて座新星の発見
- ◇ 天体発見功労賞  
受賞者なし
- ◇ 天文功労賞
  - 長期的な業績 (1 氏、1 件)
    - ・大金 要次郎 (おおがね ようじろう) 氏  
「自作光電測光装置を用いた 23 年間にわたるベテルギウスの UBVRI 測光」
  - 短期的な業績 (3 氏、1 件)
    - ・森山 雅行 (もりやま まさゆき) 氏  
「反復新星さそり座 U の 2022 年増光の世界初の検出」
    - ・渡部 勇人 (わたなべ はやと) 氏、渡辺 裕之 (わたなべ ひろゆき) 氏  
「小惑星ディディモスによる恒星食の観測の主導」
- ◇ 天文教育普及賞 (1 氏、1 件)
  - ・的川 泰宣 (まとがわ やすのり)  
「宇宙教育の先駆的な活動」
- ◇ 日本天文遺産 (2 件)
  - ・「大阪市立電気科学館プラネタリウム」 (所有・管理者 : 大阪市立科学館)
  - ・「仁科型電離箱」 (所有・管理者 : 国立研究開発法人 理化学研究所)

## VI. 助成金(定款第2章第5条5、7、9項に該当の事業)

- ◇ 早川幸男基金：  
若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として早川幸男基金選考委員会の選定に従い総額約600万円の援助を行なう予定であった。COVID-19の影響は2022年度前半においては残っていたものの、支給額は5,511,336円であった(応募37件、採択18件、うち1件は採択後に辞退)。採択率49%であった。
- ◇ 学術交流費(学生の年会参加旅費補助)：  
COVID-19の影響は残っていたものの、年会がハイブリッド開催となったため補助金の支給は782,000円となった。
- ◇ 国内研修支援金：  
2020年度に決定し2021年度において研修を行った奨学生1名への支援金(12万5千円)を、2022年8月に支給した。なお、2023年度国内研修支援金の応募者はゼロであった。

## VII. 後援事業等(定款第2章第5条8項に該当の事業)

国際・国内シンポジウムなどの後援9件、協賛7件、共催2件を決定した。

承諾日	実施月		事業名	宛先(代表者)
2022/4/11	2022/6~ 2023/3	後援	青少年のための科学の祭典2022	日本科学技術振興財団
2022/5/16	2022/7	後援	第12回高校生天文活動発表会	実行委員会
2022/5/16	2023/8	共催	APRIM 2023	日本組織委員会
2022/5/16	2022/6	後援	第20回高校生・高専生科学技術チャレンジ	実行委員会
2022/5/16	2022/8	後援	天文・天体物理若手夏の学校	実行事務局
2022/5/17	2022/11	共催	日本学術会議 物理学委員会シンポジウム	物理学委員会
2022/5/18	2022/7	後援	仙台・宮城サイエンスデイ2022	実行事務局
2022/6/2	2022/9	協賛	第40回レーザセンシングシンポジウム	レーザセンシング学会
2022/6/30	2022/9	協賛	2022年URSI日本電波科学会議	電子情報通信学会
2022/7/25	2022/9	後援	第4回量子線イメージング研究会	実行委員会
2022/8/4	2022/11	協賛	Optics & Photonics Japan 2022	日本光学会
2022/8/26	2022/11	後援	第22回「こどものためのジオ・カーニバル」	地域地盤環境研究所
2022/9/6	2022/10	後援	みたか太陽系ウォーク	三鷹ネットワーク大学推進機構
2022/10/4	2022/10	後援	「三鷹・星と宇宙の日」	国立天文台
2022/12/2	2023/3	協賛	IAU Symposium 380	IAU
2023/1/5	2023/8	協賛	第51回可視化情報シンポジウム	可視化情報学会
2023/2/24	2023/9	協賛	日本流体力学会 年会2023	日本流体力学会
2023/3/2	2023/6	協賛	第48回光学シンポジウム	日本光学会

## Ⅷ. 外部の各賞・研究助成等への推薦(定款第2章第5条7項に該当の事業)

外部の各種の賞および研究助成に対し、TENNET・天文月報・学会ホームページで候補者を広く募り、会長・副会長が中心となって選考した上で学会としての正式の推薦を行った。(井上學術賞1件、日本學術振興会賞1件、日本學術振興会育志賞1件(受賞決定)、島津奨励賞1件、東レ科学技術研究助成2件(1件受賞決定)、山田科学振興財団研究援助1件)

## Ⅸ. 事務所活動(定款第1章第2条)

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員3名と6名の非常勤職員により、本会の各事業に関する業務活動を行った。

## Ⅹ. 会長候補者選挙(定款第4章第17条に該当する事業、「会長・副会長・理事・監事選考細則」に準拠する)

2023～2024年度の会長候補者を選出する会長選挙を行った。選挙公示(天文月報115巻10号)に示した候補者募集期間の被推薦者は井田茂氏1名だったため、細則第6条により投票は行わず、井田茂氏を会長候補者とした。結果は、細則第9条に基づき理事会および代議員に報告すると共に、天文月報115巻(2022)12月号において報告した。

## Ⅺ. その他

COVID-19感染拡大の影響に関連し、経済的に困窮する学生の正会員を対象として、2022年度会費を免除した。免除対象人数は96名となった。

### 会員数

2022年度末(2023年3月31日)現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合計
2022年3月31日	2,194(548)	1,019	38	42	3,293
入会	273(238)	40	0	3	316
退会・除籍等 (うち除籍)	△182(117) (△18(0))	△69 (△7)	0 (0)	0 (0)	△251 (△25)
移籍(増)	4(3)	17	—	—	21
移籍(減)	△17(1)	△4	—	—	△21
正会員へ(学生減)	△(75)	—	—	—	—
2023年3月31日	2,272(596)	1,003	38	45	3,358

(注1: 除籍とは会費未納による資格喪失を指す)

(注2: 移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

(文責: 庶務理事 町田真美)